

農業技術センターニュース

目 次			
シキミにおけるフシダニ類の発消長	.. 1	LAI (葉面積指数) によるユズせん定の見える化	.. 4
水耕栽培によるオオバの生理障害の再現(多量要素の過剰症状)	.. 2	茶の風力選別に使える改良型小型唐箕機の製作	.. 5
ナスハイワイヤー誘引栽培の収量および生育特性	.. 3	水稻薬剤防除におけるドローンの散布精度	.. 6

シキミにおけるフシダニ類の発消長

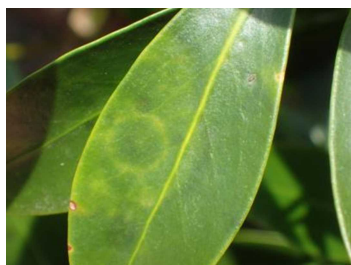


写真1 シキミの輪紋症状

写真2 シキミハリナガフシダニ(仮称)

写真3 シキミサビダニ(仮称)

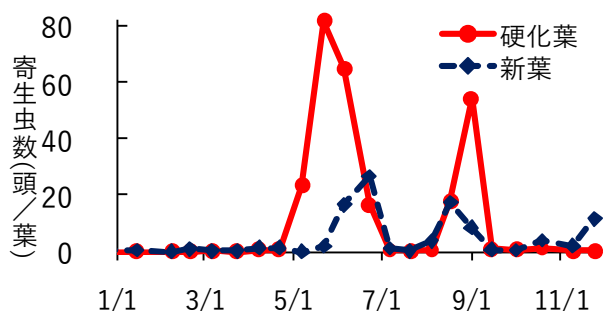


図1 シキミハリナガフシダニの発消長(2020年)

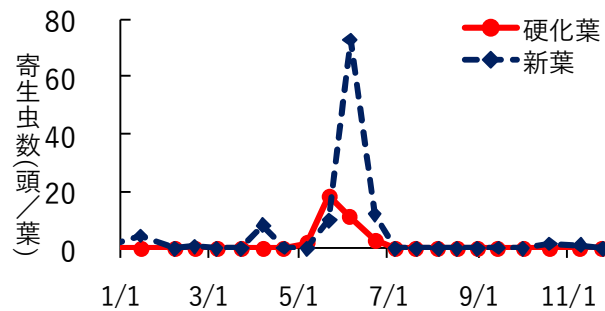


図2 シキミサビダニの発消長(2020年)

高知県内のシキミでは、輪紋症状(写真1)による品質の低下が問題となっています。輪紋症状には、体長約0.1mmと小さなフシダニが媒介するウイルスが関与していると考えられています。県内では、シキミハリナガフシダニ(仮称)とシキミサビダニ(仮称)の2種類のフシダニ(写真2、3)が確認されており、輪紋症状を抑えるにはこれらフシダニの防除が重要です。しかし、発消長が不明なため、薬剤防除に適した時期も明らかになっていません。そこで、輪紋症状が発生している県東部のシキミ園で、フシダニの発消長を調査しました。

シキミハリナガフシダニの発生のピークは5~6月、8月、11月の3回で、特に5~6月

の発生が多い結果でした。また、硬化葉(旧葉)での発生が多い傾向でした(図1)。シキミサビダニの発生も5~6月に多く、1月と4月にも発生がみられました。また、シキミハリナガフシダニと異なり、新葉での発生が多い傾向でした(図2)。

以上のことから、2種類のフシダニは発生の傾向がやや異なりましたが、両種とも5~6月に発生が特に多かったことから、薬剤防除はフシダニが増え始める前の4月中旬~下旬に行うのが良いと考えられました。

今後は、この2種類のフシダニに対して効果の高い殺虫剤を明らかにする予定です。

(昆虫担当 武藤美樹 088-863-4915)